

## P23c チャンドラ衛星による星形成領域 S106 の高空間分解能 X 線観測

坪井陽子 (中央大学)、前田良知 (宇宙研)、古屋怜 (Arcetri Astrophysical Observatory)、今西健介 (京都大学)、小山勝二 (京都大学)、村上弘志 (宇宙研)

S106 は原始星初期の天体 S106 FIR および激しいアウトフローを伴う原始星 S106 IR などを含む距離約 600pc に位置する星生成領域である。我々はこの星領域を 45ks の積分時間で X 線天文衛星チャンドラを用いて観測した。100 個以上の X 線天体が星生成領域の中心付近に検出された。3 keV 以上の硬 X 線帯域では、3 keV 以下の軟 X 線帯域に比べてよりソースの中心集中が見られ、そのうち 10 個の天体は可視・赤外帯域での対応天体なかった。一方、S106 FIR および S106 IR からの X 線対応天体はなく、IRAS 点源も一つも検出されなかった。当発表では、これらの X 線天体の特徴についてまとめる。